

開港5都市景観会議 市民発、開港都市のまちづくり

平成9年10月31日から11月2日にかけて、開港5都市景観会議が開催された。

開港という共通の歴史をもつことを縁に、平成5年に神戸から始まり、以後、年1回ずつ長崎、新潟、函館と開催し、このたび横浜大会が開かれた。

それぞれの地域でまちづくりに取り組む市民団体の交流と意見交換を目的として、市民の実行委員会(会長:関内を愛する会理事長鶴岡博氏)主催で行われた。シンポジウム、分科会、見学会、展示会などが催され、市民団体(30団体)、行政関係者など3日間延べ700人が参加した。

企画運営を通して新たな関係づくり

実行委員会には、元町エスエス会、馬車道商店街、中華街発展会、伊勢佐木町商店街、野毛地区街づくり会などの商店街、関内を愛する会、山下公園通り会などの商業者・事業者の団体、山手まちづくり協議会などの住民団体、横浜シティガイド協会、かわを考える会などのテーマ型団体など、多彩な14団体が集まった。

事例紹介に止まらない突っ込んだ議論をしたいという思いを反映させるため、分科会は各団体が分担して企画運営を行った。オブザーバーとして市職員も加わり、イベントの企画会議でありながら、都心部のまちづくりを熱心に語り合う場面も多かった。

関内など古くからの都心地域は、開港以来の商業業務と観光の中心地でもあるが、隣接するみなとみらい21地区の開発により、街の活性化を図ることが大きな課題になっている。

一方、住宅地である山手では、観光地化に対する住環境の保全などの課題がある。都心地域の多くの商店街や地域団体が協働して一つのイベントをつくりあげる機会は少なかったため、今後のまちづくりに向けた地域連携の良関係づくりができたと感じた。

シンポジウム 開港都市の伝統・文化を活かしたまちづくり



左から 嶋田昌子さん、高秀秀信市長、荻野アンナさん



高秀秀信市長

荻野アンナさん



パネルディスカッションで議論する5都市の市民代表

開港記念会館で開かれたシンポジウムの第1部は高秀秀信市長と作家の荻野アンナさんを迎えて「開港文化と横浜のまちづくり」と題して対談が行われた。進行役は、横浜シティガイド協会の嶋田昌子さん。

開港都市の魅力について2人は、文化やまちづくりにおいて、和洋新旧の多様性を持ち、かつコンパクトにまとまっていることと語った。まちづくりの面では、歴史的な建造物の保全活用とともに、みなとみらい21などの新たな都市の活力創造なども重要であるとした。

また、ジャズやミッションスクールなど今に引き継がれている開港文化についてもそれぞれ、自身との関わりを交え、育てていきたい大切な財産と語った。さらに、横浜の魅力を高める上で、市民主催の開港5都市景観会議は意義あるものとして評価した。

第2部は5都市の市民代表により、パネルディスカッションが行われた。

今に生きる開港文化の影響を述べ、開港文化を活かしたまちづくりについて議論がかわされた。海外の文化が流入し、それを自分たちの文化にまで昇華したのが開港都市の特徴。固定観念にとらわれない先進性があると、かつてそうであったように新しい産業を興すなど、経済的な自立と開港文化を結びつけていきたいという提案もなされた。

わが街への思いが深まった3日間

嶋田昌子 実行委員:横浜シティガイド協会

神戸で第1回が開催された時点で、「いつかは横浜」と私たち参加者の誰もが意識しながら、長崎、新潟、函館と会を重ねてきたような気がする。雪の新潟大会では横浜らしい出し物には中華街の「獅子舞」と皆で話し合いもしたし、函館では横浜大会の会場や見学コース設定について、すでに議論が始まっていた。

そんな地ならしがあったためか、実行委員会の動きは一気に阿成、商店街と市民グループのチームワークは素晴らしかった。鶴岡会長の力強い牽引に加え、鈴木・六川両副会長の心配りも行き届いており、さらに事務局の元町SS会など、関係者の努力は言葉に尽くせない。都市計画局と中区役所のサポートも見事で、市民と行政のパートナーシップのモデルケース、と他都市から賞賛の声があがった。

記憶に残るのは、高秀市長と荻野アンナさんとの対談。行動派のお二人だけに具体的にかつ説得力があった。分科会もそれぞれに趣向をこらした。テーマ別に5コースに分かれて歩いた後、スライドや特別に制作したビデオなどを使ったので、分かりやすかったと思う。

他都市や市内参加者の意見を聞きながら、わが町・横浜への思いが深まった会議だった。

開港5都市景観会議 横浜大会 大会宣言

快適で魅力あるまちをつくるためには、そのまちで日々暮らし、働く人が理想の実現に向けて、主体的に取り組むことが重要です。

今日、ここ横浜:近代日本のあけぼの「和親条約」締結の地に、5つの開港都市の市民が集い、「開港都市の伝統・文化を活かした街づくり」をメインテーマに、歴史や文化、さらに、これからのまちづくり・景観づくりについて、思いをめぐらせた。

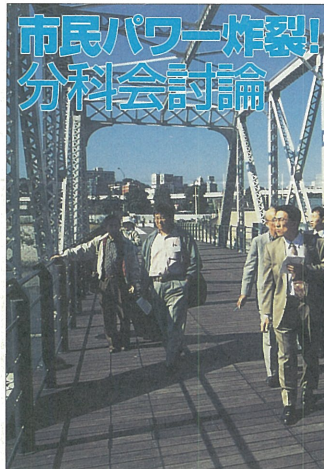
そして、この語らひは、参加者各々「まちづくり・景観づくり」に大きな示唆を与えたと確信します。

この語らひの場を今後さらなる「まちづくり・景観づくり」を考える場として育てるためには、より広く多くの市民が集うことが必要と考えます。

今、全国でさまざまな「まちづくり」の市民団体が活動しています。いかに「固有の歴史、文化」と「まちづくり」を融合させるかは、私たちの永遠のテーマであると思います。

私たちは、今後この会議が「景観」の切り口にとどまらず、「まちづくり」を考え実践する多くの市民団体をリードする存在となるよう努力するとともに、各都市で固有の歴史を大切に個性あるまちづくりを自ら主体的に実践していくことをここに宣言します。

1997年11月2日
開港5都市景観会議横浜大会 参加者一同



A分科会



B分科会



D分科会



C分科会



E分科会

A分科会【歴史的資産の保存・活用】

歴史的資産の失われた原因を探り、保存と活用の事例を紹介。相続税など税制面の課題が取り上げられ、今後も継続して議論するべきとした。キーワード:住民が地域を愛する気持ちが、歴史の資産を守る力

B分科会【成長する開港都市】

新市街地と旧来からの市街地との協調発展にどう取り組むかが議論された。古くからある市街地は、ソフト・ハード両面で新旧を生かして個性化を図ることが重要とした。キーワード:OLD&NEWのまちづくりで個性と魅力をつくる

C分科会【外国文化が生きる街】

さまざまな外国文化が互いを認め合いながら個性を主張し、かつ街として調和を持つことが良いと結論づけた。個々の「味」がはつきりわかる意味で、料理に喩え「サラダボール」と表現した。キーワード:サラダボールのように個々が主張しながら全体として調和を持つ



各市民団体の活動をパネルで紹介



海上から横浜の港を見学



大会宣言がなされた全体会議

D分科会【まちづくりのシステム(商店街のまちづくり)】

各商店街の事例を基にまちづくりの仕組みを紹介し、これからの商店街づくりに重要なことは何かを考えた。

地域全体で共通のビジョンをもつこと、国際化を進めること、大型商業施設に対抗するには「青空」に代表される自然を生かす、などと議論された。キーワード:地域の力でビジョンを共有することが、まちづくりを進める原動力

E分科会【開港都市の生活文化】

開港都市の1つの特徴である「女子教育の普及」にスポットを当て、開港文化がどのように生まれ、継承されているかを探った。

新しい文化を受け入れる原動力は、好奇心と高い教育水準であると分析した。女性の社会進出は開港時代からめざましく、まさに「開港文化は女性が支える」と自負させるほどである。キーワード:進取の気性とそれを支える高い教育水準が開港文化を創り出す